

「 私にもできること 」

徳島県 阿南市立那賀川中学校 1年 ^{まつお}松尾 つばさ

「命があったからね。家族みんな…。家は全部壊れたけど……。」市の職員の男の人は、避難所の世話にあたり、自宅はその間に土砂に埋もれてしまったそうです。無理に笑顔を作っていたけどニュースで流れた目には、いっぱい涙がありました。

7月2日に発生した台風3号は、台風が過ぎ去った後も福岡県や大分県などの「九州北部豪雨」が発生、いたるところで土砂災害が起こり、現在も行方不明者捜索が続く大きな被害をもたらしました。テレビ画面で流れる映像はショッキングなものばかりで、思わず目をそむけてしまい、怖くて最後まで見ることができませんでした。今年の台風や大雨による被害はこれだけではありません。調べてみると、7月の台風の発生数は8個であり、史上最多タイ記録だったそうです。つまり、「大きな」台風が「多く」発生し、それに伴う大雨で土砂災害も頻発するようになってきているように思えるのです。

『…。「非常に強い」台風18号の中心気圧は940ヘクトパスカル。中心付近の最大風速は45メートルです。』昨夜の夕食時、テレビは近づく台風の「気象情報」を刻一刻と伝えていました。「最近やって来る台風のほとんどが、大きいなあ。」といった母の声。母も私と同じように感じていることがわかりました。

最近、テレビを見ていると画面の上に「土砂災害警戒情報」の速報が入ることがあります。台風の接近時が多いのですが、どこに危険が迫っているかに注目したり、心配したり、家族に報告したりするなど、私なりに関心を持って速報を確認しています。テレビの速報だけでなく、スマートフォンで地域の警戒情報の速報を大音量のアラーム音で知らせてくれるため、所持していない私でも、両親や祖父のアラーム音で気づき、一緒に現在の状況を把握できるのでとても助かります。ただ、どういう状態になったら、土砂災害警戒情報が発表されるのか、私の住んでいる阿南市は土砂災害が起こりやすい所なのかと考えてみましたが、私は全く知らないということに気づきました。これではいけないと思い、今回作文を書くことで少しでも土砂災害について学ぼうと思いました。

調べてみると、土砂災害警戒情報は大雨警戒が発表されている間に、土砂災害の危険性が高まった場所に市町村を特定して気象庁と都道府県が共同で発表することがわかりました。その場合、いつ土砂災害が起こってもおかしくない状況なので、早めに安全な場所へ避難することが大事だと知りました。ここ数年はゲリラ豪雨や大型台風の影響で土砂災害のニュースを見かけることが多くなりました。発表された地域の人々は安全な場所に避難できたとしても、住む家や土地がなくなってしまう場合もあり、私も自分に置き換え想像するだけで不安でいっぱいになりました。

詳しく調べてみました。徳島県の土砂災害の危険がある箇所は13001もあるということがわかりました。とても驚きました。土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域の2つに分けられていて、私の住む阿南市は警戒区域だけでも417か所もあることがわかり、ショックを受けました。私の住む那賀川町は海が近いので、土砂災害より津波に対する関心が高いので、今回の作文を通してあまりにも自分が無知であったと、反省しました。「自然災害が起こった後に対策や法律ができる」ケースがあります。行政のことはわかりませんが、私たちでもできることはないだろうかと考えました。

改めて家の中を確認してみると、玄関にヘルメット1個と防災バックが置いてありました。両親に聞くと、ヘルメットは地域役員の人から1軒に1個支給されたことがわかりました。私の家では、それをきっかけに自分たちでしっかり準備しようということになり、防災バックを用意して定期的に中身をチェックするようになったようです。また、自転車通学で使っている私や妹のヘルメットを母はこまめにチェックし、必ず玄関のわかりやすい場所に置いてあります。そんな簡単なことでも、ある程度自分の身を守ることができるし、何よりも「災害に対する心構え」ができます。私自身は土砂災害にたいして、深い知識などは持っていませんが、私でもできる準備はやっていくことができると思います。また、今回の作文を通して、取材したり積極的に考えて調べることができたりしたので少しは自信につながった気がします。

土砂災害について、もっともっと知識を深め、身を守ろうと呼びかける人間になるために少しずつ努力を積み重ねていきたいです。「知ること」により、対策を考え、準備をしていくことで私は土砂災害にこれからも向き合っていきたいと考えています。